

令和 6（2024）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

メリー★ポピンズ 南砂ルーム

特定非営利活動法人 福祉総合評価機構

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。 ・10よりも100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 ・“感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 ・「0を1にかえる力」を日本中の子どもたちにつけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せてあげて背中であげて教える人 より良い保育を目指して創意工夫していける人 ・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔で心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中的言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。 <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯44(在籍児童数49)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数

49

利用者家族総数(世帯)

44

共通評価項目による調査対象者数

44

共通評価項目による調査の有効回答者数

36

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

81.8

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」47.2%・「満足」44.4%の計91.6%と高い値を得ており、設問別でも「発達に配慮した保育活動」「戸外活動」「整理整頓・清潔」「ケガ・体調変化への対応」など、全17問中15問で80～90%台の高い支持を得ている。

自由意見では「朝早くからの散歩でたくさん自然に触れ、食育関連の取組で野菜等に触れたり、畑を利用したり、料理等を通じた体験ができ、園内の活動も多彩で、保育者の皆さんの対応が丁寧・適切で子どもに優しく、明るい雰囲気がある」「小さな園なので、クラスに関係なく先生や幼児の交流があるところがうれしく、野菜の育ち方や食べ物の作り方など、食育や生きる力を育ててくれている」「少人数でしっかりクラス分けされていないからこそ、さまざまな年齢層の友達とふれ合え、園庭は小さいが遠くの公園に散歩に行くので体力がつく」「生活習慣が身につくような取組や配慮が日常から行われ、近隣商店と接点を持つなど、社会性が身につく取組も実施されている」などの声が寄せられている。要望などとして複数見られたのは、保護者との日常のコミュニケーションや就労・負担への配慮、職員の体制や行事・安全管理に関することである。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	34	1	0	1
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が97.1%、「どちらともいえない」が2.9%となっている。 自由意見は8件で、「毎朝元気よく保育園に行き、できることが増えているように感じ、友達と遊んでいる写真を見て、社交性が身についているように見える」「保育園に行くようになって、すごく成長したね、と皆から言われる」「保育園の経験が成長させてくれていると感謝している」「さまざまな行動ができるようになり、驚いている」などの声が寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	33	2	0	1
「はい」が94.3%、「どちらともいえない」が5.7%となっている。 自由意見は9件で、「家でなかなかできない活動(色水遊び・ボディペインティング・感触遊びなど)を行ってくれたり、食育に関して充実していて、さまざまな経験をさせてもらっている」「魚を焼いたり野菜を収穫したり、自宅ではなかなかできない体験をしている」「他の保育園では体験できないことをたくさん与えてくれているので、ありがたいと思っている」などの声が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	31	4	0	1
「はい」が88.6%、「どちらともいえない」が11.4%となっている。 自由意見は8件で、「最初月齢が小さかった頃は、細かく刻んで提供してくれた」「家では食べない食材でも給食だと一口でも食べるので、園の力はすごいと思う」「おかわりするほど食べていると聞いている」「毎日画像をアップしてくれており、参考になりとてもおいしそうだ」などのほか、補食の提供について、さらなる配慮を望む声が見られる。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	33	1	0	2
<p>「はい」が97.1%、「どちらともいえない」が2.9%となっている。</p> <p>自由意見は7件で、「公園だけでなく、地域との関わりがあるため、消防署の前を通った時に反応していた」「遠足や、毎日散歩に連れて行ってくれて体力もつき、自然にふれ合えていて、遠足はお弁当まで出されていて、至れり尽くせりである」「毎日外遊びをさせてくれ、家ではここまでできないと思う」「畑がよく、いつも楽しかったと言って帰宅している」などのほか、低年齢児の戸外活動等のさらなる充実を望む声が見られる。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	29	3	0	4
<p>「はい」が90.6%、「どちらともいえない」が9.4%となっている。</p> <p>自由意見は7件で、「柔軟に対応してくれ、非常に助かっている」「直前の延期に対応してくれ、大変助かった」「子どものもらい風邪で体調不良になることがあり、すぐに迎えに行けない時も快く対応してくれている」「電話ではなくアプリでの申請になっており、とてもありがたい」などの声が寄せられている。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	24	8	4	0
<p>「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が22.2%、「いいえ」が11.1%となっている。</p> <p>自由意見は8件で、「今年から感染症の情報があることが助かっていて、ケガの時の連絡もしっかり受けている」「感染症のお知らせを掲示板に掲示してくれる」などのほか、保育中の安全管理や設備面、衛生管理等について、気になる点や要望が挙げられている。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	33	3	0	0
<p>「はい」が91.7%、「どちらともいえない」が8.3%となっている。</p> <p>自由意見は5件で、「短時間なので参加しやすい」「土日に行事を開催してもらえるので参加しやすく、感謝している」「年間カレンダーで把握はできている」などのほか、行事の日程の設定や職員の負担過重への懸念、日程等の連絡について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	32	2	2	0
<p>「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が5.6%、「いいえ」が5.6%となっている。</p> <p>自由意見は7件で、「連絡帳の記述だけでなく、毎日の口頭でのコミュニケーションが図られている」「毎日その日の様子を口頭で伝えてくれ、こちらが心配なことがある時も気にして見てくれており、報告してくれる」「子どもが保育者の方々を慕っているので信頼していて、毎日子どもの様子をアプリに記載してくれるので楽しみに読んでいる」などのほか、職員の対応やコミュニケーション機会の確保について、さらなる配慮を望む声があった。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	34	1	0	1
<p>「はい」が97.1%、「どちらともいえない」が2.9%となっている。</p> <p>自由意見は2件で、「きれいだと思う」のほか、衛生管理について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	33	3	0	0
<p>「はい」が91.7%、「どちらともいえない」が8.3%となっている。</p> <p>自由意見は4件で、「不快に感じたことはまったくなく、先生方の服装も言葉遣いもとてもよいと思う」「特に違和感を感じることはない」「先生はいつも笑顔で接してくれ、子どもも安心して感じている」のほか、職員の接遇について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	34	1	0	1
「はい」が97.1%、「どちらともいえない」が2.9%となっている。 自由意見は4件で、「親身に対応してもらえてありがたい」「信頼できる」「些細なことでも必ず報告してくれる」のほか、体調不良等の際の個別対応について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	24	3	1	8
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が10.7%、「いいえ」が3.6%となっている。 自由意見は2件で、子ども同士のトラブル等の把握や保護者への報告・説明について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	34	1	1	0
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が10.7%、「いいえ」が3.6%となっている。 自由意見には「朝、泣きながら預けることになって、忙しい中、抱っこをして機嫌を取ってくれたりする」の1件があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	29	1	0	6
「はい」が96.7%、「どちらともいえない」が3.3%となっている。 自由意見は2件で、「プライバシーは守ってくれると思うが、そのような場面になっていないのでわからない」のほか、プライバシー保護等へのさらなる配慮を望む声が見られる。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	31	5	0	0
「はい」が86.1%、「どちらともいえない」が13.9%となっている。 自由意見には「わかりやすく、わからないことがあって尋ねると、わかるように答えてくれる」「保育士による」の2件の声が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	27	3	1	5
「はい」が87.1%、「どちらともいえない」が9.7%、「いいえ」が3.2%となっている。 自由意見には「まだ不満に思ったことがないが、対応してくれると思う」「不満に思うことはないが、そうなった場合、対応してくれると思う」の2件があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	13	8	4	11
「はい」が52.0%、「どちらともいえない」が32.0%、「いいえ」が16.0%となっている。 自由意見は「わからない」の1件であった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	園・法人が保育や子どもの育成において目指すものを、保護者と共有すべく努めている 理念「にんげん力。育てます。」と子育て目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」、子どもを中心とする保護者・職員・地域の協働を謳う運営理念を、系列全園で掲げている。保護者にはこれらを見学・入園時に説明するほか、保護者懇談会や種々の行事、年間を通じて行う保育参加などの対話や実体験の機会や、日々の発信・掲示物などを通じ、園の保育と子どもたちの育ちを具体的に共有しながら、多様な生活体験の積み重ねの中で、人に頼り、尋ね、自ら考え行動する力をすべての子どもに培うことを目指す、法人の思いを伝えている。 法人共通の理念等のもとで、年度の園の方向性を組織全体で検討・決定している 職員には上記の法人共通の理念等が、入職時とその後の法人による各種研修を通じて周知されている。また園内で毎年度開始前に2回にわたり行う「策定会議」では、法人の年度の「運営本部ミッション」をもとに、次年度の園目標や事業計画上の「基本方針」、行事その他の年間の運営・活動の全体像を、職員参画のもとで検討・決定している。日々の園運営や現場の保育は、園長と各リーダーが経営層として統括を担い、毎日の昼礼や毎月の「園会議」で種々の方針を現場と共有し、必要な情報を議事録や園内チャット等で不参加者に伝えている。 意思決定と周知の仕組みを整え、現場の発想を日々の子どもの育ちの支援に活かしている 園運営全般の日々の施策・方針は、上記の園会議や経営層の随時の打ち合わせによって検討・決定し、上述の複数の方法・媒体によって組織全体に周知させている。また法人が発信する系列園共通の施策・方針等も、これらの仕組みによって園内で共有している。保護者への種々の重要な連絡事項の伝達は、主にアプリでの配信と既読確認によって行っている。所与の環境のもとで法人の目指す保育の最善の具現化を目指し、常に子どもを主体として、日々変わる子どもの育ちを支援すべく、現場の発想を積極的に実践に活かすことを、運営の基本方針としている。	

2			カテゴリー2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行				
サブカテゴリー1(2-1)				
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している			○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評 園の重点課題等を定めた事業計画の作成・実行と、経営状況の管理の仕組みを整えている 法人の運営本部が、上述の理念等と系列各園の共通課題等を踏まえ、毎年度の「運営本部ミッション」を設定している。園内ではこれをもとに、前掲の策定会議で年度の園の目標と基本方針、保育や保護者・地域支援、人材育成や省資源・環境保護の各分野で、年度の重点課題を定めており、計画は半期ごとに園会議で振り返りを行っている。また当年度から3か年の「目指す姿」「重点施策」と前年度の振り返りを、同計画の末尾に併記している。予算の作成・進捗や稼働率などの経営状況の管理は、園・法人間で推移を随時状況しながら行う仕組みとなっている。 現場の実務も計画のもとで実行し、保護者・職員の意向の把握も多様な方法で行っている 事業計画中の保育その他の各業務分野では、年間及び各期間の取組内容や目標・ねらい等を定めた各計画を別途作成し、必要な進捗管理のもとで実行している。上記を含む各計画の実行の体制として、行事や会議などにおける業務分担を年間の月単位で一覧化し、事務室に掲示している。また保護者の意向を、日々のコミュニケーションや面談・保護者懇談会等での対話などから把握し、職員の意向は前述の各会議や日々の業務内外の会話、園長との面談などから把握し、組織の状況や労働環境などへの意向等を法人が把握するアンケートも設けられている。 事業環境の動向の把握や、園の経営状況の管理の仕組みが整えられている 入園前見学や地域支援「ちきんえっぐ」では、来園者から地域ニーズ等を把握しており、感想を募る簡易的なアンケートも設けている。また江東区の私立保育所園長会や、区内の各中学校区で域内の保育所・幼稚園・小学校及び中学校が集う連携会議、区の「マイ保育園」事業に参画する園同士の交流などからも、区内・地域内の子育てや保育・教育などの状況を把握している。これらに関連する行政の各種政策・制度の動向や業界内の話題は、左記の区園長会や法人内の施設長会議・勉強会、自治体・法人の各種通達などから把握している。		

3			カテゴリー3	
経営における社会的責任				
サブカテゴリー1(3-1)				
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。			○非該当
サブカテゴリー2(3-2)				
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている			○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある			○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している			○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている			○非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
職員の行動・判断の基準や守るべき規範を明確にし、現場での共有と実践を促している 職員には入職時のオリエンテーションの際に、人権擁護・虐待防止、守秘義務などの保育従事者に求められる倫理や、社会人としての各種心得の理解と実践が促されている。また法人共通の「コンピテンシー」に、「プロになる」「保護者の立場に立つ」「ビジネスマナー」「危機管理」など7分野で、職員の行動・判断の基準を示し、これらをもとに各職員が毎月自身の強み・課題などに関する内省を行い、次月の目標を設定している。毎月の園会議では2グループに分かれ、これらの集約をもとに次月の園全体の行動目標を定め、次月の同会議で振り返っている。		
保護者の個別の意向への対応と、園・家庭双方での虐待等の防止に取り組んでいる 苦情解決制度を整備し、掲示や入園時の説明により保護者に周知を図るほか、玄関に意見箱を設けている。また日々の交流・面談でも保護者の個別の意向を把握し、案件に応じて対応している。年度開始時の「キックオフミーティング」で、園内・家庭双方での子どもへの虐待的行為の排除を確認するほか、子どもの人権・性差への配慮などについて、全職員が法人策定のチェックリストによる半期ごとの自己点検を行っている。法人の「虐待対応マニュアル」も園内に常備され、虐待等の疑いや事案には、法人内で理事長を交えて対応を検討する仕組みとなっている。		
地域に園の情報と専門資源を積極的に提供し、保育・教育施設間の連携にも加わっている ホームページや江東区、地域内の掲示板などを通じて園の各種情報を発信するほか、実習生や小中高生のボランティアの活発な来園が得られており、受け入れと対応の手順が「保育品質マニュアル」に定められている。また地域の公園で行う「青空保育」、食育体験「自然食堂」、季節の遊びや制作・表現活動を楽しむ「自然学校」「芸術学校」など、地域向けの子育て支援「ちきんえっぐ」を毎月実施し、園の資源を積極的に地域に還元している。区の私立園長会や地域内の保・幼・小・中の連携会議などを通じ、保育・教育施設間の連携・交流にも加わっている。		

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
保育中の各種のリスクを想定し、定期的な点検・訓練をはじめ、多様な対策を講じている 年度開始前の「キックオフミーティング」で、各種の事故や保健衛生面、虐待・不適切保育等、保育中に想定される各種のリスクを、必要な対策をともに確認している。誤飲・誤嚥防止や園内設備・備品の状況に関する安全点検と、園内・園外の危険箇所を図示したハザードマップの更新を、それぞれ四半期ごとに行っている。毎月の防災訓練では立地上懸念される水害を含め、災害時の対応を確認し、年2回の不審者対策訓練やカメラによる要所の常時監視など、不審者対策にも取り組むほか、災害・感染症を想定した法人のBCP(業務継続計画)も整備している。 事故・ヒヤリハットの検証や、その集約と傾向の分析、散歩時の安全対策にも努めている 保育中の子どものケガをはじめとする各種の事故や、それらの未遂事例にあたるインシデント(ヒヤリハット)は、発生後の昼礼や園内チャットでの周知と原因・防止対策等の検討、毎月設ける「事故防止委員会」でのそれらの事例の集約と検証などにより、安全の確保と向上に活かしている。事例は上記のハザードマップの更新にも反映させ、事故防止委員会では集計に基づく傾向の分析や、系列他園の事例の共有もなされている。また自動車・自転車の往來の多い道路に面する立地を踏まえ、散歩時の出発から帰園までの各過程での安全対策の徹底にも努めている。 各種情報の適切な管理・利用を図るため、環境整備と関係者への啓発・説明を行っている 職員が園児の個人情報や肖像を扱うことは理由・経緯を問わず禁止することなど、情報管理における実務上の遵守・禁止事項を、法人共通の「保育品質マニュアル」に定め、入職時の研修・OJTや年2回の「情報セキュリティチェック」により、全職員に徹底を促している。また実習生等には受け入れ時に守秘義務の厳守を求め、保護者には入園時に、個人情報の利用目的や開示等の請求への対応などを説明し、同意を確認している。重要書類や各種端末・ソフトウェア類の管理・利用においても情報漏洩防止に配慮し、端末類は法人が使用状況等を管理している。		

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリー5の講評		
<p>職員の採用から育成・キャリア形成までの仕組みや、労働環境面の諸制度を整備している</p> <p>職員の募集・採用は、法人が公式採用サイトや各種養成機関・人材関連業者、在職者への人材紹介の奨励など、多様な方法で行い、各施設の体制の状況に応じた配属・異動を行っている。園内ではチームで保育を行う際の総合力の発揮を念頭に、経験・能力のバランスや子ども・保護者との関係性などを考慮して配置を行っている。職員の勤怠や残業・休暇取得などの管理、ストレスチェックや相談窓口「ちょこっとライン」など、働くうえでの各種仕組みや、初任者から経営幹部級までの各職責を示す資格等級表、法人内の研修等の体系なども整備されている。</p> <p>法人内の多様な研鑽の体系と、等級・年数などに応じた個別育成の仕組みを設けている</p> <p>新人・リーダー育成や業務改善、人権・虐待や法人策定の「保育品質マニュアル」「コンピテンシー」など、法人内に多様な課目の研修が整備され、保育や安全などの実務的なEラーニング教育も設けられるほか、新入職者には「OJT研修」による基礎力養成の支援もなされている。また常勤者には上記の等級上の職責に応じ、年度の事業計画中の重点課題を踏まえた育成目標を設定し、半期ごとの達成評価を行う仕組みが運用されている。評価は園長との面談によって各人と共有され、処遇面にも反映させることで、能力と意欲をともに高める仕組みとしている。</p> <p>園内でも学びと話し合いの場やチーム力促進の仕組みを設け、園の保育の質を高めている</p> <p>毎月の各会議での保育や安全面などに関する話し合い、接遇や子どもの人権・虐待、安全に関する各種テーマの園内研修など、組織内にも研鑽や課題解決の場を多様に設け、同僚性向上の機会ともなっている。また法人の「子育ての質をあげる会議」に参加した担当職員の学びを共有し、園の保育などの見直しに活かしたり、各職員が新年度前の「策定会議」でプレゼンテーションする企画を、年間の行事その他の取組に反映させる仕組み、各人が抱える仕事を記入し、相互の支援に活かす、事務室の「猫の手ボード」など、現場のチーム力の促進にも取り組んでいる。</p>		

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>法人が理念・子育て目標として掲げる「にんげん力。育てます。」「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を踏まえ、昨年度の事業計画では、「自分で考え、行動する」子を育てる」を冒頭の「基本方針」の一つに挙げ、保育分野の重点課題として、子どもたちが毎日の生活の中で行う「日課」の充実や、「1歳児から就学までに必要な経験、環境を考え、計画的に進める」ことなどを定めた。年間を通じ、日々の昼礼、園会議や担任会議で情報共有を丁寧に行い、子どもにとって必要な遊び、体験の機会について職員間で討議し、それらを適宜保育の計画に反映させ、実践に努めた。</p> <p>日課として行う散歩やリズム体操、雑巾がけなどの取組に加え、夏にはプール遊びの時間を活かし、色やスライムなどを混ぜたさまざまな氷の比較から、子どもたちが形状や氷になる過程、溶け方などの違いを知る機会を設けた。また相撲大会への参加や、幼児が相撲部屋を訪れ、力士の方たちと交流する取組のほか、音楽会では木の実で作ったマラカスなどの手作り楽器を演奏し、たき火体験では地域と連携して焼き芋も楽しんでいる。職場体験で来園する高校生との交流、木の実遊びや「雨の日散歩」なども行っている。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評</p> <p>経営層はさまざまな保育活動や毎日の生活体験が、子どもたちの「にんげん力」の育みに活かされたと考えている。年度末の振り返りにおいては、次年度に向けた課題として、子どもの発達への理解が職員ごとにさまざまであり、日々の実践の中で、一人ひとりの子どもの心身の発達状況に即した支援や、必要な関わりと見守りの見きわめなどが、時に難しい場面も生じたことなどが挙げられている。また子どもの発達の状況がそれぞれ異なる中で、個別配慮が必要な子どもへの対応が必要となる場面も時に発生し、園児一人ひとりに丁寧に関わるのが難しくなることもあることも、今後の課題と考えている。また法人の運営理念に示される「大人が背中を見せること」、子どものロールモデルとなる大人としての姿勢を、それぞれの職員が常に意識し、実践することについても、さらなる啓発に取り組む意向である。</p> <p>今年度の事業計画では、これらの成果や反省を踏まえ、「にんげん力」を子どものみならず、それを支える園の大人たちも高めるべく、「当保育園に関わる子ども、園スタッフが、活動や行動を自分で選択し、主体的に日々を過ごす園を目指す」を基本方針に定め、各分野で重点課題を設定して取組を進めている。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

上記「評価項目1」の取組や重点課題とも関連し、昨年度は卒園後の小学校への円滑な接続を意識した、発達の連続性や、保育所保育指針に示される、「健康」「人間関係」「環境」などのいわゆる保育の5領域に関する組織的な研鑽と、ワンフロアの空間で子どもたちが生活する園舎の構造を活かした、保育環境の充実に取り組んだ。

年間を通じ、法人内の「子育ての質をあげる会議」に参加した職員の学びをもとに、5領域についての理解を深める園内研修を実施するとともに、各領域に関連の深い子どもの育ちのエピソードをつづった記録の作成にも取り組み、子どもの姿をとらえる視点を組織全体で深めた。また異年齢で毎日を過ごす幼児クラスをはじめ、子どもの心身の成長や保育活動の推移を踏まえた室内環境の見直しも随時行い、環境構成の充実を図った。地域の中学校区内の保育所・幼稚園・小学校及び中学校の連携会議にも出席し、食事の際のマナーや食事の時間、身辺自立や識字能力など、子どもたちが就学に向けて習得することが望ましい習慣・知識などの情報を、小学校との間で共有し、園内でもそれを反映させた保育実践や日々の援助に取り組んだ。

目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

経営層は保育の5領域に関する研鑽について、職員ごとに理解の差はあるが、組織全体で必要な知見の獲得が得られたと考えており、エピソード記録の作成も、子どもの姿をとらえる力の向上につなげられている。環境設定の継続的な見直しと充実や、就学を見すえた生活習慣等の習得についても、引き続き取り組んでゆくこととしている。

今年度の園内研修では、保育所保育指針に示される「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿(10の姿)」について学びを重ね、各年齢の発達段階やその連続性を踏まえ、子どもの育ちをより豊かにするための援助・活動や環境の充実を図ることを目指している。また乳幼児期が就学やその後の生涯にわたっての基礎となることを踏まえ、「生活力・選択力・思考力」を育むことも重点課題に据え、小学校への接続がすべての子どもにおいて円滑になされるよう、保・幼・小・中の連携、学習指導要領や国が示す「スタートカリキュラム」に関する研鑽にも取り組むこととしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評			
<p>ホームページやチラシなどを通じて、法人の目指す子育てや園の取組などを発信している</p> <p>法人のホームページには、系列園全体で行う「どろんこの子育て」に関する思いや具体的な内容について、象徴的な子どもたちの姿や関わりなどがわかる写真を添えて発信している。当園のページでは、園の概要や、提供するサービス内容と料金のほか、年間及び各月の行事予定、園・保健・食事・地域活動に関するお便りを公開し、園便りでは写真を交えて畑仕事や日課・園外活動などの様子を発信している。地域向けの活動のチラシは区役所や児童館に設置し、参加を募るほか、園開放を毎日実施し、実際の内容を見て体験できる機会を提供している。</p> <p>行政との連携を図り、園に関連するさまざまな情報の公開を行っている</p> <p>行政との連携を図っており、行政の各種資料やホームページ、関連の子育てサイトなどで、園の基本情報や年齢ごとの募集人数などの最新情報が掲載されるほか、区の園紹介のページに1日の流れや年間行事、保育の特色などを端的にまとめたチラシが公開され、地域の方々への情報提供がなされている。区の地域の子育て支援活動の一環とした「マイ保育園登録制度」の実施園であり、住所・連絡先等が掲載されている。また園掲示板での広報によって道行く人に知らせたり、来園者に対して地域支援活動「ちきんえっぐ」の招待なども行っている。</p> <p>園見学を受け入れ、利用希望者等への詳細な説明と見学の対応を行っている</p> <p>見学は電話やホームページなどで事前に受け付けており、子どもが外に出ている時間で、ゆったりと見学できる日時を勧め、実際の雰囲気や環境等を見てもらえるようにしている。当日は、「入園のしおり」を用いて法人の理念や子育ての目標を伝えたり、1日の流れや保護者との連携、持ち物などの詳細な説明を行い、当法人ならではの子どもの生きる力の育みと自然体験など、この地域ならではの環境を活かした活動も紹介している。また最後に質疑応答の時間を設け、入園を検討する方の知りたい内容を伝えつつ、園の方針への理解が深まるよう努めている。</p>			

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>			
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>			
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
保護者に対して、利用開始にあたっての説明と同意確認を行っている 入園内定者には、入園説明と面談などを行っている。「入園のしおり(重要事項説明書)」をもとに、法人の理念・方針や園の概要、開園日・時間や休園日、設備や職員体制、1日の保育の流れや食事の内容のほか、利用料金や支払い方法、園生活での準備物、保護者との連携や利用にあたっての留意事項、事故や災害時の対応などを説明している。その後、説明の内容を項目ごとに読み上げ、漏れがないかを確認したうえで、保護者の同意を得る仕組みとしている。また理念・方針等は、ホームページで英語・中国語での表記も設けるなどの配慮もなされている。			
子どもに関する入園までの情報を把握し、個別の支援に活かしている 入園時には保護者に依頼し、児童の健康や生育歴、予防接種や食事などに関する内容をシステムに入力してもらうことで、一人ひとりの情報が把握できる仕組みとしている。また、入園前児童面談票をもとに、保育所通園経験の有無、既往歴や発育、栄養面や食事の状況、身体的な成長や気になる事項などを聴き取っている。食物アレルギーや健康面の配慮が必要な場合などでは、必要に応じて専門職を交えた面談を行い、詳細な内容を確認している。これらを会議や昼礼などで担当及び職員間で共有し、一人ひとりの状況を踏まえた支援に努めている。			
入園直後の子どもや保護者の安心や、利用終了後の関係の継続などに配慮している 入園後は 希望する保護者 には保育を短時間から徐々に延ばし、子どもの負担を和らげる「慣れ保育」を提供し、登園予定日と保護者の復帰日、気になる事項などを話し合い、それぞれの家庭や子どもの状況に応じて設定している。園が子どもにも保護者にも安心できる場所となるよう、子どもと職員との関係づくりと個別の支援に 努め 、園と家庭での子どもの様子を伝え合いながら進めている。利用終了にあたり、保護者の不安等にはお迎え時や面談の際に相談に応じ、園を巣立った子どもたちを「どろんこ祭り」や運動会に招くなど、関係の継続にも配慮している。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ3の講評

保護者のニーズや家庭状況を把握する機会を定期的に設け、保育にも活かしている

個人面談は、懇談会終了後の時期に希望者を募り、家庭の都合に合わせて個別に実施している。家庭で気になっていることの相談を受けたり、園の様子を伝えることで、園での生活や小学校への就学に向けての配慮点などを保護者と情報交換・共有している。また法人が系列各園で行う「利用者アンケート」及び第三者評価受審年度の利用者調査も、保護者からの意見・要望の把握に活かしており、法人のアンケートでは保育内容や職員の接遇、家庭への伝達など運営全般についてアンケートを取り、寄せられた意見を踏まえて保育活動の改善にもつなげている。

クラス単位と個別の指導計画を策定し、子どもの様子をもとに振り返りに努めている

全体的な計画では理念や方針、養護と教育の各分野に基づく保育のねらいと内容、子育て支援や小学校との連携についても定めている。全体的な計画をもとに、年間指導計画をはじめとする各計画に反映させている。**全年齢でクラスごとの計画のほか、発達差が著しい1・2歳児では個別の月案、個別配慮が必要な子どもについて「個別支援計画」を作成している。**園会議では保育指針におけるいわゆる「10の姿」の項目を**ピックアップ**し、前月の保育の写真を見ながら各クラスで振り返りを行い、子どもの育ちの状況と今後の取組について話し合いを重ねている。

保育の目標や日頃の取組を保護者に発信し、理解を深めるための取組に配慮している

上記の法人によるアンケートは、第三者評価受審年を除き、毎年度実施されている。年2回開催する保護者懇談会で、年齢ごとの保育の取組内容及び評価と今後の指導目標を園から資料として配付・説明し、保護者同士の質問時間を設けるなど、交流が図れるようにも工夫している。園便りには写真を掲載し、日常の保育だけでなく、畑仕事の様子など園の取組が保護者にもわかりやすいようにしている。園の玄関には、食育活動の取組の様子や、週ごとに代表的な活動を写真で掲示して、保護者への報告としてお迎えの際に見てもらえるようにしている。

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報保護は保護者の意向に沿った適切な取り扱いに努め、子どもの人権にも配慮している</p> <p>入園時に個人情報の取り扱いに関する内容を説明し、保護者に同意の有無をシステム上で入力してもらっている。保育中に子どもが名札を着用するため、園外に出る時などに名前が見えないような方法を希望するかどうか保護者に確認し、希望に準じた配慮を行っている。子どもの排せつの失敗の際には、他の子どもから見えないところで着替えの援助を行い、着替えの際は全身脱ぐのではなく上を脱いだらすぐ着ることを伝え、5歳児対象でプライベートゾーンや命の大切さについて話をするなど、子どもの人権とプライバシーを守るための取組に努めている。</p> <p>子ども一人ひとりを大切にするためのマニュアルを定め、その徹底を促している</p> <p>法人共通の方針として、一人の人間としてとらえ、子どもの名前を呼ぶ際には必ず敬称を付け、呼び捨てやあだ名で呼ばないこととしている。また、子どもが自らの意思で活動を選択し、自分で考えて行動してゆくような支援を心がけており、子どもが興味を示したことはできるだけ見守り、活動に取り組んでいる時は安全を確保しながら必要最小限の補助を行うことを基本としている。これらをマニュアルに定め、年度当初に確認するとともに、法人策定のチェックリストによって各職員の実践状況の振り返りを行い、その徹底に努めている。</p> <p>各家庭の状況等を踏まえた支援と、虐待防止や保護者支援の再確認などに努めている</p> <p>子どもと保護者の価値観や生活習慣などは入園時及びその後の面談、各種の書類や会話等を通じて把握しており、園として可能な支援を心がけている。児童・保護者の人権に関するチェックリストの振り返りでは、子どもの人権擁護だけでなく、保護者の育児支援や要支援児への配慮、保護者との連携などの意義等を再確認する機会ともなっている。また、園会議の際には虐待防止研修を記載しており、5つの虐待の種類、受け入れ時のケガ対応や視診のポイントなど、職員に虐待の早期発見と対応方法などの周知を図っている。</p>			

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(○○○)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(○○)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評			
<p>園の運営や保育実践に必要な手引きをまとめ、日常の活用を促している</p> <p>法人共通の園の運営管理や安全・衛生管理、事務的な手続きなど、ISO基準に基づいたマニュアルを整え、各園に常備している。各職員に配付している「保育品質マニュアル」には、理念・方針やミッション、統一ルール、保育の計画・記録・自己評価・業務改善のプロセス、保育場面ごとの手順や考え方のほか、事故・災害・感染症・個人情報保護の対応などをまとめており、日常の手引きとして活用させている。年度当初のキックオフMTでは、特に重要となる内容を、ポイントを絞りながら職員と確認し、欠席者には閲覧押印による共有を図っている。</p> <p>業務水準を維持できるよう、さまざまな仕組みを整えている</p> <p>園内の業務水準が維持できるよう、所定の項目に基づいた法人の内部監査が定期的実施されている。園内では個人情報保護や清掃、SIDSや園外保育などについて、所定の様式に基づいた確認・点検を行うことで、実施の漏れがないような仕組みを整えている。また緊急対応や衛生管理などのマニュアルを掲示し、即時の対応に備えるほか、年度当初及びその後の園会議で、各種のマニュアルの確認を行っている。さらに法人で定めた「コンピテンシー」の振り返りと確認、「子育ての質を上げる会議」でのテーマをもとにした話し合いが行われている。</p> <p>法人マニュアルや園の方向性等について、適宜、見直しや検討を図ることとしている</p> <p>法人全体のマニュアルに関しては、所定の上程フローに合わせて提案・意見を行うこととしており、毎年、改定の必要性や内容を各施設長および運営部で検討し、見直しを図ることとしている。これを各園に展開するほか、随時の変更点は本部から各園に内部共有ツールを用いて周知がなされている。毎年の「利用者アンケート」の実施、日常的な会話や保護者懇談会などで保護者の意見等を把握し、今後の見直しの参考とするほか、年2回の「策定会議」で職員の提案や思いなどを共有したうえで、次年度の自分たちの保育・運営の方向性を話し合い、決定している。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇〇)</div>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている <div style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</div>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している <div style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</div>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している <div style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</div>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している <div style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</div>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている <div style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</div>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している <div style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</div>
評価項目1の講評	
<p>子ども一人ひとりの思いを丁寧に汲み取り、職員の話し合いのもとで保育を進めている</p> <p>一人ひとりの子どもの様子を丁寧に見る意識を組織的に高め、見えてくる子どもの様子を昼礼などで共有する取組を行うほか、法人の各園から中堅層の職員が集まり、各園の取組事例の発表やそれを踏まえた話し合いなどを行う、法人内の「子育ての質をあげる会議」での学びをもとに、保育環境の見直しや子どもとの関わりに反映させている。また昨年度は保育所保育指針における保育の5領域、今年度は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」について園内研修を続けており、自園の保育活動の位置づけや展開の仕方を学び合っている。</p> <p>異なる文化や支援の必要な子どもへの配慮を行い、どの子も安心できるようにしている</p> <p>幼児クラスは異年齢で生活していることもあり、さまざまな人がいるのが当たり前という環境の中で外国籍の子どもも含め自然な子ども同士の関わりが生まれている。日本語の理解がゆっくりな場合は丁寧に話したりする配慮は行いつつ、一人ひとりの存在を受けとめて、園生活が楽しめるように保育者が支援している。また障害の有無などにかかわらず、配慮が必要と思われる子どもには「課題の整理表(要支援児用)」及び「個別支援計画」を策定し、毎月のケース会議で子どもの姿や保育者の関わり工夫、家庭との連携状況について確認し合っている。</p> <p>職員の交流、子どもの交流それぞれの機会を活かして、スムーズな就学につなげている</p> <p>中学校区ごとにエリア分けされた保育園・幼稚園・小学校・中学校の職員同士の連携や学び合いを目的とした「江東区連携教育の日」が江東区主催で開催され、小・中学校の授業公開や情報交換の場として活用されている。子どもの交流に関しては、距離の近い小学校への訪問と学校内の見学の機会が実現し、5歳児が訪問することで入学後のイメージが広がり、就学への期待感を持って保育園生活を過ごせるように交流を図っている。今年度はまだ1回の開催のため、卒園予定の子どもたちが通う予定の小学校など、交流先を広げていきたいと考えている。</p>	

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評		
<p>子どもについて保護者とのコミュニケーションが深められる仕組みを整えている</p> <p>登降園時には、保護者と口頭で子どもについての情報をやり取りするほか、1・2歳児は毎日連絡帳を使って、食事や排せつ、体温、睡眠といった生活に関する情報を共有している。子どもの受け入れと引き渡しを玄関で行っており、日常生活の様子を見てもらいやすいように保育参加の機会を設けたり、エントランスの掲示物を活用してクラスごとの活動の様子や食育活動の報告などを保護者に見てもらいやすく発信している。お迎えの際には3分を目安に子どもの状況を詳しく伝えられるよう取り組んでいる。</p> <p>食事や排せつ、睡眠などの生活習慣の自立に向けた個別の支援に努めている</p> <p>食事に関するマナーや食具の使い方などは、個々の子どもの発達を見て伝えている。2歳以上児はバイキング形式の配膳を行っており、子ども自身が食事の役割や大切さを知る機会を設けている。排せつや睡眠のリズムは一人ひとり個人差があるため、アプリ連絡帳などを使って家庭ともこまめにやり取りし、その子に合ったタイミングでトイレトレーニングや休息の時間が取れるよう配慮している。2歳児からは連絡帳でのやり取りよりも、受け入れやお迎えのタイミングで保護者と口頭で子どもの状況を共有する時間を大切にし、生活習慣の自立につなげている。</p> <p>お昼寝などの休息は無理強いせずに子どものリズムで休息が取れるように配慮している</p> <p>お昼寝など休息の時間は、子どものリズムに合わせて設けている。保護者から、お昼寝時間を長くしたい、あるいは短くしたいという要望がある場合にはできる限り対応するとともに、眠れない子を無理に寝かせたり、起きられない子を無理に起こしたりすることのないよう、子どもの状況を見ながら適切な休息の援助を行うことを大切にしている。5歳児は就学に向けて徐々に昼寝をなくしていき、家庭での様子も聴きながら、その子のペースで進められるよう調節している。</p>		

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3の講評

静と動のメリハリや自然を感じられる活動など、幅広い子どもの体験を大切にしている

各保育室では、子どもが静の活動と動の活動のどちらもが体験できるようにしている。都会の園ではあるが、生き物の飼育やタマネギの絞り染め、壁面を利用して設置された広めのホワイトボードを活用したタンграм遊びや、時間・文字・カレンダーの掲示など、毎日の生活の中で自然体験や知的体験ができるよう工夫している。また、2歳児は概ね運動会後から徐々に3歳以上児と一緒に過ごす時間を増やし、幼児の生活に無理なく移行できるようにしている。5歳児は当番活動も行い、米とぎや食事準備などにもやりがいを感じながら取り組んでいる。

言葉や文字への興味を深めたり、さまざまな表現活動を楽しむ機会を設けている

「のびのび」という就学前の識字教育に関するプログラムでは、ワークシートを使って3歳以上児が運筆練習を行ったりしている。体育指導及び音楽指導は3歳以上児が週1回取り組んでおり、クラスの担当者が指導しながら、マットや跳び箱、縄跳び、ボール遊び、集団遊びなどさまざまな要素で身体を使って遊ぶ中で、楽しみながら心身を育むことにつなげている。音楽指導も四期に分けて計画を策定し、歌や楽器演奏を通して表現を楽しんだり、季節を感じたりする経験となっている。

園庭や園外の活動が1年を通して展開され、食や社会への興味関心につながっている

園庭は人工芝の限られた面積ではあるが、給食を食べるスペースにしたり、ウッドデッキの雑巾がけを子どもが行ったり、夏にはプールや水遊びを行うなど、環境を最大限に活用して子どもの体験の幅を広げている。園外の農園に子どもたちがバスで出向いて収穫体験なども行い、園庭のプランター栽培と合わせて、1年の中で野菜を育てる体験を重ねている。また、週1回商店街ツアーと題する活動を幼児が行っており、さまざまな業種のお店を見たり、店の方と会話をしたり、買い物をする体験などを通して、社会のしくみや職業への興味・関心を高めている。

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		<input type="radio"/> 非該当
	評価項目4の講評			
	<p>行事は子どもの意見や姿を踏まえて計画し、一人ひとりが楽しめるよう取り組んでいる</p> <p>保護者も参加する行事としては、運動会・お祭り・発表会を基本としており、その他の園行事や体験活動を含め、毎年やっているから今年もやる、という考えではなく、その時の子どもたちの姿を踏まえて行事の設定を行っている。そのため、年2回の「策定会議」の場を設け、どのような行事運営にするのか、職員の業務分担などを話し合い、子どもたちの日頃の成長発達や興味の方向性から、楽しく取り組めるように配慮している。園独自の企画として、絞り染めやサンマ焼き、焼き芋、ボディペインティングなど、特色ある行事を行っている。</p> <p>子ども同士で協力したり意見を交わす機会を大切にし、達成感が味わえるようにしている</p> <p>お祭りのブースでは子どもが店の手伝いをしたり、運動会では形だけの演目や競技にならないよう勝敗がつくりレーなどを行い、チームをどうつくっていけばよい結果につながるかを考えたりすることを通して、協力し合う関係性や達成感にもつながっている。発表会でも子ども自身の得意なことが活かせるように発表内容を子どもと一緒に考え、保護者にも成長を喜んでもらう機会としている。水や土、草花など自然にまつわる子どもの興味をふくらませて行事での発表内容にするなど、日常生活の延長として各年齢ごとの楽しさが味わえるようにしている。</p> <p>子どもたちの成長や取組の様子を保護者にも発信し、一緒に行事をつくり上げている</p> <p>行事に向けた子どもたちの取組の様子はアプリのタイムライン機能を通じて保護者にも発信したり、お迎えの際に口頭で子どもの様子や成長した姿を伝えたりしている。行事後は、連絡帳を通じて保護者からの意見や感想などを把握し、次の計画の参考にしている。「どろんこサポーターズ」と呼ぶ任意の手伝いを保護者にも募集し、行事の準備や片づけを一緒に行ってもらう機会もあり、親子と職員が一緒に園の行事を盛り上げる風土づくりを進めている。</p>			

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目5の講評				
<p>1日の中で静と動のメリハリをつけて過ごせる環境や、適切な休息の援助に配慮している</p> <p>法人全体で、静の空間と動の空間をそれぞれ固定の場所に設ける環境設定を重視しており、子どもの興味や関心に応じて配置を変える際にも静と動のどちらの活動も保障できるよう、保育者が話し合いながら工夫を重ねている。静の空間にはくつろぎ用のマットや机上遊びのできるコーナーなど、子どものペースに合わせて休息や集中が図れるよう配慮している。日中眠たくなったり疲労の見られる子どもには、横になれる環境を用意したり、甘えたい気持ちや情緒面に不安がある場合には、子どもの気持ちに寄り添って受けとめるようにしている。</p> <p>個々の子どもの生活リズムや家庭状況を考慮し、その子に合った過ごし方を支援している</p> <p>合同や延長保育により職員が代わったり、特に乳児では慣れない職員体制で落ち着かないような場合には、抱っこなどのスキンシップを図ったり、事務室など別の場所で落ち着けるように配慮している。子どもの人数が減ってくる時間帯では、寂しくなったり飽きたりしないよう、子どもの様子に合わせて提供する遊びを変えながら、楽しく過ごせるように保育を進めている。個々の生活リズムや家庭の状況を職員間で共有し、無理なくその子なりの過ごし方ができるように対応している。</p>				

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目6の講評		
<p>献立や食材へのこだわりや調理と保育の連携により、給食の質を高めている</p> <p>法人統一の献立は、和食中心の薄味で野菜を意識的に採り入れたメニューとし、グループ全体で希望する園児が田植え等を体験させてもらう南魚沼の生産者から取り寄せたお米を使用している。給食会議を毎月1回行い、アレルギー除去の状況や、給食室からのお願い、各クラスの喫食や食育活動の取組などを調理スタッフと保育者間で共有している。そのほかにも、各園からの調理スタッフが集まって行う食育会議を毎月1回行い、法人としての食事のこだわりや調理の工夫、食育計画や子どもへの指導等について情報を共有し、討議を通じて振り返りを行っている。</p> <p>個別の配慮が必要な場合の食事提供も、安心安全で豊かなものとなるよう努めている</p> <p>「食育計画マニュアル」に園における食事の意味や子どもたちの取り組む内容例、献立の特徴など、「給食提供マニュアル」に衛生管理や調理法、食物アレルギー児対応マニュアルを設定している。アレルギー対応の必要な子どもの給食については、医師が記入した「生活管理指導票」を確認しながら保護者・調理スタッフ・保育者で面談を行い内容を確認している。除去品目にマーカーで色づけした献立表を作成して、個別に記名したトレーを使用し、おかわり分も含めて氏名と除去品目を明示した個別の配膳で準備している。</p> <p>食に関する子どもの体験が、生活との連続性や社会とのつながりも意識して広がっている</p> <p>毎月1回の調理保育では各年齢で取り組む工程を変えながら、全体で一つの調理につながるよう計画を策定している。9月の「さんまを焼いてみよう」という活動では、地域の居場所事業スペースを活用し、さんまを焼いて食べる体験を設けている。また、幼児では毎日バイキング形式で自分の配膳を行っており、食べる量の調節ができるようにしており、2歳児は進級に向け、徐々にできるものから配膳に挑戦し、進級後にひと通り配膳ができるように関わっている。</p>		

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		
		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目7の講評			
<p>子どもたちが自分の健康や身体を大切にできるよう、さまざまに取り組んでいる</p> <p>園内では、手洗いの方法を示したイラストを掲示し、子どもが日頃から確認できるようにするほか、年齢によって歯磨きを採り入れ、少しずつ自分で取り組めるような支援をしている。5歳児を対象として、プライベートゾーンに関する話と、子どもが生まれるまでの話などをしており、胎児人形を用いて重さも体験してもらうほか、性教育の一環として企業と連携した活動も設けており、4・5歳児とその保護者が一緒に参加し、自分の大切な身体の場所を知り、科学や探究的な要素を採り入れた内容とすることで、清潔に保つことなどを学ぶ機会となっている。</p> <p>健康・安全面についても、自分で考えて判断できる力を育めるような支援に努めている</p> <p>自分たちの身は自分たちで守ってほしいという願いのもと、幼児クラスでは自分で身を守ったり、判断したりしていくため、地震や火災など災害を想定した訓練後には、各ケースでどうしたらいいかと子どもに問いかけている。また、警察による交通安全指導のほか、散歩の際には安全に歩く模擬練習や交通ルールを守ることなど、体験を通じて学び、自分で意識ができるようにしている。寒さや暑さなどを踏まえ、衣服を調整したり、ジャグを準備して水分補給をしたりするなど、季節の変化や自分の状態に合わせて取り組めるようにしている。</p> <p>関係機関や保護者との連携体制を整え、子どもの健康管理にあたっている</p> <p>嘱託医による定期的な健康診断が行われており、結果は「乳幼児健康診断票」に記録するとともに、保護者に報告して確認の押印をもらうなど、双方での情報共有を図っている。歯科検診が年2回あり、子どもの口腔内や歯の発育状況を確認・記録しており、その際に子どもへの歯磨き指導も行われている。身長・体重については毎月測定し、結果は専用アプリで保護者に報告している。季節ごとに流行する感染症に関して、保健便りにて情報提供をするほか、園内で感染症が発生した場合、感染症名と発生人数を玄関掲示で知らせている。</p>			

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目8の講評

保護者の子育てや就労等へのさまざまな配慮に努めている

保護者の子育てや就労等の状況は、入園時やその後の面談、日頃の会話やアプリでのやり取りなどを通じて把握しており、日々の子どもの生活や必要な支援などに活かしている。また運動会や発表会等の保護者参加行事は土曜日に設定しており、年間の行事や月々の予定を保護者に事前に知らせ、日程調整がしやすいような配慮をするほか、おむつのサブスクリプションや個人水筒の用意・持参の不要など、負担軽減もなされている。その他、延長保育は定期及びスポットでの利用を可能とするほか、就労に加え、子育てに関連する支援にも柔軟な対応に努めている。

保護者同士の自然な交流や、園行事の体験の場を提供している

保護者同士の交流の場として、保護者懇談会の際には職員との話し合いだけでなく、それぞれの保護者の自己紹介や保護者同士の懇談の時間も設けている。また「どろんこ祭り」や発表会などの保護者参加行事で顔を合わせ、自然な交流が行われるほか、「どろんこサポーターズ」として、運動会の際の片づけやどろんこ祭りでのブースの手伝い等を依頼するなど、行事等を一緒に参画してもらえるようにしている。その他、わらべ歌体操の講座を開催したり、保育参加への活動の参加を促したりするなど、実際の子どもの様子を知る機会も提供している。

懇談会や各種ツールを通じ、子どもの様子や成長などを保護者と共有している

年2回実施される保護者懇談会では、園から子どもたちの成長の見通しや今後半年の目標、子どもたちの育ちなどを伝えるほか、職員と保護者との意見交換を図りながら、園と保護者の保育・教育内容についての相互理解を深める機会ともなっている。子どもに関する情報については、日々の送り迎え時のコミュニケーションや園便り等の定期的な発信などのほか、タイムラインを用いて保護者にお知らせしたり、写真を活用した「ポートフォリオ」や玄関での掲示など、子どもたちの日頃の様子を保護者に発信している。

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評				
<p>子どもたちが自然や食、人などに関わりを持ち、実際の体験や交流を行っている</p> <p>法人バスを活用し、定期的に夢の島区民農園に出かけ、2歳児や幼児のグループごとで農作物を栽培しており、土作りから、水やりや草取り、収穫や試食といった体験を重ねている。徒歩遠足では長距離を歩いて出かけ、荒川の土手や亀高公園など、子どもたちがさまざまな場所での体験が得られるようにしている。また幼児が近隣の公園に向かう時や公園内でゴミを探し、きれいにする気持ちを養うとともに、ゴミの種類を知ることにつなげている。月1回の青空保育で、地域の人と公園でふれ合ったり、近隣の高校生を招いた異年齢交流も行っている。</p> <p>地域とのつながりを大切にしながら、子どもの視野や体験の幅を広げている</p> <p>地域とのつながりを大切にしており、「商店街ツアー」では、図書館や消防署、相撲部屋・神社・銀行・商店などに出かけ、販売しているものを見たり、地域の人との挨拶ややり取りを交わすことを楽しんだりするほか、子どもたちが身近な社会や仕事などを知ることの一助となっている。また幼児は保育者との関係を深め、地域の人たちと交流することを目的に、定期的に地域内の銭湯に出かけている。さらにシニア交流では、地域の高齢の方が集う場所に出かけ、庭先でサンマを焼いたり、落ち葉を集めて焼き芋を焼くといった体験もなされている。</p>				

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	保育や安全について、毎月の園内研修を通じた組織的な学びが活発に持たれている	
内容①	法人内の「子育ての質をあげる会議」での担当職員学びを自園に還元し、保育の「質をあげる」仕組みが持たれている。毎月の園内研修で「思考力の芽生え」「自立心」「道徳性・規範意識の芽生え」など、保育指針におけるいわゆる「10の姿」に関する研鑽を重ね、保育環境や子どものエピソード記録、写真を活用して保育を伝える「ドキュメンテーション」などについても学んでいる。エビベン・AED使用、水遊びや熱中症・SIDS、見失い防止や公園での安全確保、写真や事例を題材とした事故リスク抽出など、安全面でも活発な研鑽がなされている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保護者との子育てにおける協働に向け、寄り添った対応とさまざまな工夫がなされている	
内容②	子育てにおける保護者との協働を重視し、送迎時の対応をできるだけ短時間にしつつ、アプリ連絡帳も活用した過不足のない子どもの様子や成長の伝達や、家庭との連携に努めている。また保護者目線に立ち、おむつや着替えの準備、おむつの記名や水筒・弁当持参等の負担の軽減、アプリでの保育時間の変更など、寄り添った対応と利便性の向上にも取り組み、玄関での写真の掲示や随時の保育参加の受け入れも行っている。各種行事は土曜を基本に設定し、保護者との子どもの育ちの共有を図るとともに、行事の手伝いも募るなど、さまざまな工夫がなされている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル③	子どもが自らの身体と心を守り、ケガをしない強い身体を育む保育を行っている	
内容③	ケガをしない強い身体を育てるという方針のもと、裸足保育や雑巾がけ、畑仕事や長距離散歩、リズム体操などを採り入れている。午前中はしっかりと戸外で身体を動かし、足腰のバランスや体幹・体力を増進するとともに、お腹いっぱい昼食を食べて休息するといった日課を大切にしている。また、自ら考えて行動できるよう、手洗いや歯磨きなど健康的な生活習慣を重ねたり、避難訓練後には身の守り方を問いかけるほか、年齢に応じてプライベートゾーンと命の大切さを知らせたり、企業と連携した性教育の活動で保護者と一緒に学ぶ機会を設けている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	異年齢の子どもたちの関わりや、生活のメリハリをつける空間の使い分けにより、毎日の生活を通しての学びが得られるようにしている
	内容	幼児は異年齢保育を行っており、2歳児から3歳児への進級時の環境の変化に配慮し、概ね運動会後から幼児クラスに合流し、少しずつ幼児の生活に慣れる配慮もなされている。また幼児の各保育室は静と動にスペースを分け、それぞれの環境の中で集中して取り組める活動や、身体を使って表現する楽しさが味わえる活動などを行っている。異年齢の生活を通して年上の子を見て学んだり、年下のお世話をするほか、特に最年長の自覚と責任感が芽生える5歳児では、当番活動での米研ぎや食事の準備、片づけなどを通して、周りの役に立つ経験も積んでいる。
2	タイトル	園外の資源も活かして行われる畑の活動や、発達に即して取り組むクッキングなど、豊かな食の実体験の提供がなされている
	内容	園外の貸し農園での野菜栽培や、地域の居場所事業の敷地を借りて行うサンマ焼きなど、地域資源もさまざまに活用しながら子どもたちの食の体験を広げている。畑で穫れた野菜は毎月のクッキングで使用したり、おやつとして焼き芋を提供するなど、収穫して終わりではなく、年齢や発達に応じた体験が連続性を持ってなされるよう配慮し、幼児クラスはバイキング形式での配膳や園庭での喫食など、日々の食事が楽しい時間となる工夫や、食材の成り立ちを学びながら、食が自分の身体をつくることも知ることができる機会づくりにも取り組んでいる。
3	タイトル	日常の活動として行う散歩や室内でのリズム体操をはじめ、都会の中でも体力を豊かに培えるよう、多様な活動を行っている
	内容	積極的な散歩や園内外での畑仕事、ウッドデッキの雑巾がけ、全クラスが毎朝の日課として行うリズム体操や、幼児が週に1回行う体操の時間など、日々の活動を通して自然に触れたり、身体のコントロール力や体力を高める経験が積み重ねられている。また乳児の遊びとしてもマットや跳び箱を使って昇り降りを楽しむなど、粗大運動を通して身体のさまざまな機能の発達につなげている。都会に立地しながらも、子どもたちが楽しみながら積極的に生活の中で身体を動かすことで、心と身体の成長・発達を促せるよう、多様な取組を設けている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	注力する保育の可視化を質量ともに充実させ、内外への保育の発信や、それを通じた園への信頼・評価の向上につなげたいと考えている
	内容	保育の可視化を目指し、子どもの行動やつぶやきをとらえたエピソード記録、毎週の活動の様子や畑の作物の様子等の写真の掲示など、保護者への発信に取り組んでいる。エピソード記録や写真を活用した「ポートフォリオ」などの作成にあたっては、職員が負担なく取り組めることなども意識しながら、「園会議」での話し合いや園内研修などを通じて研鑽を重ねている。取組をさらに積み重ねながら、保育の可視化を質量ともに充実させることを今後の課題としており、その成果を内外への保育の発信と、園への信頼・評価の向上に活かしていきたいと考えている。
2	タイトル	組織全体で年度の園の方向性を検討・共有する仕組みを、関連する具体的な目標や、園の近未来像の明確化にも活かす工夫を期待したい
	内容	新年度前の2回にわたる「策定会議」で、園長作成の事業計画をもとに職員が話し合い、園目標をはじめとする年度の園運営の全体像を検討・決定しており、同計画の期中・年末の評価にも職員が参画し、その集約をもとに次年度の計画が立案されている。これらに象徴される、園の方向性を組織の総意のもとで定める話し合いの文化を、同計画の各重点課題における定性・定量目標や、計画に併記される3か年計画の「目指す姿」など、「どうなりたい」の検討にも活かしてはどうか。職員の当事者意識をより高める機会としても、一考の余地はあるかと思われる。
3	タイトル	今年度策定されたBCPを、園単位の業務・事業運営の継続にも適用可能とする、計画内容の見直しなどにも期待したい
	内容	災害・感染症の発生時のBCP(業務継続計画)を、今年度から「保育品質マニュアル」に記載し、その他の事象を含む種々の緊急事態への対応を示す「クライシスマニュアル」とともに、必要時の手引きとしている。同マニュアル・BCPとも、内容は法人全体としての対応が主となっており、事業所単位での有事の際の運営・事業の継続については、それぞれの一部の記載にとどまっている。国の示す同計画のひな形や、介護施設向けの同種の計画なども参考に、「園としてどうしてゆくか」をより具体的に文書化し、訓練・研修等にも活かす工夫を検討されたい。